

1260

號

第



閱

房官臣大	課局務主	裁	決	大臣	件	番受
了結領受	出提領受			五	名	號領
大正四年	大正二年九月二十六日				機關銃隊用器材審査ノ件	
長	局	主務局長	參事官	次官	軍事機密第一八一號	
				高級副官	兵器局器材課	
長	課	主務課長		主務副官		
者	記	主務課員		主計		
	案					
	審					



軍事 步兵、騎兵、銃砲課聯帶

軍機第一三〇號

銃乙字第一五

軍事局第一九二號

陸軍省
從總

陸機密號

大臣ヨリ參謀總長へ照會

別紙要領ニ據リ陸軍技術審査部ヲシテ

機關銃隊戰用器材ヲ審査爲致度候也

陸軍省
陸機密第 九三 號

十月一日

右異存ナキ回答アリタル上左案決行相成度

陸機密號 陸軍技術審査部長へ達

別紙要領ニ據リ步兵聯隊機關銃隊ノ携

帶器具並騎兵旅團機關銃隊ノ携行器具

ヲ審査覆申ス

陸機密第 九四 號

十月三日



0924

0923

本要領ハ先年戰時補給品會議ニ於テ決議
 セラレタルモノナルモ騎兵旅團機關銃隊ニ在リテハ
 防楯ノ採否確定ヒサリシヲ以テ今日迄審査
 下命ノ運ニ至ラサリシモノトス

大正三年
 九月二十六日

兵器局長 村田

官房控

考謀本部へ
技術審査部へ

機關銃隊用器材審査要領

- 一 歩兵聯隊機關銃隊ノ携帶器具ハ銃隊ノ獨力ヲ以テ容易ニ機關銃ノ爲ニ單簡ナル掩體ヲ構築シ且簡便ニ射距離ヲ測定シ得ルモノナルヲ要ス
- 二 騎兵旅團機關銃隊ノ携行器具ハ銃隊ノ獨力ヲ以テ機關銃彈藥及銃手ノ爲各種ノ掩體ヲ構築シ且簡便ニ射距離ヲ測定シ得ハク又馱載容易確實ニシテ使用輕便ナルヲ要ス但シ土工具馱馬ニ頭ニ馱載スルモノトス
- 三 前部ノ外兩隊ニハ尚若干ノ射及清掃用器具ヲ携帶又ハ携行セシムモノトス

(以上)

陸軍

0925



軍事機密

參謀本部參謀第一八號第二

機關銃隊用器材審査一件目録

大正二年十月二日

參謀部長 于爾 長谷川 好

陸軍大臣 楠 幸彦 殿

陸機審第九三號ヲ以テ機關銃隊戰

用器材審査ニ關シ照會ノ趣異存可

及田 峯 也

(續前七) 甲

十月二日

陸軍

9260

閱

永久

軍事、歩兵課 銃砲課 聯帶

兵器局器材課 第九號

大臣	大臣	主務局長	主務課長	主務副官	主計	主務副官	兵器局器材課
參事官	高級副官	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課
聯帶局長	聯帶局長	主務課長	主務課長	高級副官	主計	主務副官	兵器局器材課

步兵機關銃隊携帶器具決定ノ件

受領 大正二年軍事機密受第一八一號

兵器局器材課

内

參事官

主務局長

主務課長

主務課員

大正三年三月廿三日

大正三年三月廿三日

大正三年三月廿三日

大正三年三月廿三日

陸機密大臣ヨリ參謀總長へ照會

大正二年十一月陸機密第九九號兵器表甲號

中第三七號步兵機關銃隊携帶器具配賦表

ヲ別表ノ通定ノ度候也

右異存ナキ旨回答アリタル上

陸機密陸軍一般へ通牒

大正二年十一月陸機密第九九號兵器表甲號

中第三七號步兵機關銃隊携帶器具配賦表

別表ノ通定今般ニ番査了了付及送付也

陸機密第三八號

四月二日

注意

別表ハ印刷ノ上兵器表甲號配賦箇所
右甲號表ト同數丈送付相成度

第三七號

考備	兵卒							軍曹(伍長)		曹長	階級	步兵機關銃隊携帶器具配賦表
	九	三二	七	四	七	四	三	三	一	人員	品目	
本表中兵卒、携帶器具ハ銃手及豫備銃手ニ之携帶セシムルモノトス	小十字銃	小圓匙	小斧	鎌	鉈	小山鋸	携帶羅針	携帶羅針	携帶測速器	携帶羅針	人員	數
	九	三二	七	四	七	四	三	三	三	一		

(一) 審査上申ノ配賦表中ヨリ三七式雙

眼鏡ヲ削除シタル理由

機關銃隊各小隊長ハ二門ニ付一箇ツツノ割
合ニ私物、雙眼鏡ヲ携帯スルノミナラス機關
銃隊ノ目標ハ概シテ中距離以内ノ肉眼ヲ以テ
照準シ得ル範圍内ノモノナルヘキヲ以テ特ニ
曹長並銃長ニ携帯セシメサルモ尚忍ブヲ得ヘク
且又之ヲ整備スルモノトセハ戰用ノミニテ實ニ五万
八千餘圓ノ經費ヲ要シ更ニ演習用ヲモ整備
備スルモノトセハ莫大ニ經費ヲ要スヘキヲ以テ所
之ヲ削除セリ。

(二) 携帯型遠器ハ步兵隊、軍事情課ノ意見ニ從ヒ三箇ニ増加セリ。

器三月十三日

兵器局器材課

0360



甲 第五一號

步兵聯隊機關銃隊携帶器具審査ノ件上

大正二年三月五日

陸軍技術部部長高川文

陸軍大臣楠瀬幸彦殿

步兵聯隊機關銃隊携帶器具別紙ノ通審査致候條及上申候也

三月六日



器材課 三九號

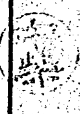
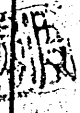
三月六日

陸軍

1280

兵卒			軍長			曹長			階級
六三			六			一			人員
小	小	小	鎌	鉈	小	携	携	携	品目
十	圓			山	三	三	三	三	携
字	匙	斧		鋸	七	七	七	七	帶
鐵					式	式	式	式	測
					雙	雙	雙	雙	遠
					眼	眼	眼	眼	鏡
					鏡	鏡	鏡	鏡	器
					針	針	針	針	
									人員
九	三	七	四	七	四	六	六	一	數

步兵機關銃隊携帶器具配賦表



陸機密部

大臣ヨリ參謀總長へ照會

大正二年十一月陸機密第九九號兵器表甲號
中第四一號騎兵機關銃隊土工具馱載區分
表ヲ別表ノ通定メ度候也

追テ別表ノ外携帶測遠器及測索各二(輕共)ヲ
三八式機關銃乙種器具箱ニ收納可致ニ付申添
候

右異存ナキ回答アリヌル上

件名 兵器表甲號第四一號表送付ノ件

陸機密副官ヨリ陸軍一般へ通牒

(才九才十三師奉行ハ
苗守部經由)

陸機密第一〇八號

十月三日

大正三年十月陸機密第九九號兵器表甲號中第
四一號騎兵機關銃隊土工具馱載區分表令般
審査直終了ニ付及送付候也

陸軍省 陸機密第一〇九號

十月七日

注意 別表ハ印刷ノ上 兵器表甲號配賦箇所ハ
右甲號表ト同數ニ送付相成度

陸軍

0935

軍事機密
第四一號

騎兵機關銃隊土工具駄載區分表

官房扣

頭										馬數	
(同右左)片										脊別	
品著裝部外		品入收							土工器具箱		品目
十字鋏頭部	品入	鋸	品入收				器	十字鋏柄	圓匙		目
	小山鋸身 齒被共		雜	青砥 (臺及覆缺)	鎌 共	鉈 刃被共					
		袋	巾							一駄ノ駄載員數	
二	一	一	二	一	二	一	一	二	四	一	

9360



秘

陸軍技術
稽查部 秘 甲 第 二 七 號

十月十日

器械 二 七 號

三八式機關銃乙種器具箱裝填品中ニ携帶測遠器追加ノ件

大正三年十月九日

陸軍技術審査部長 島川文

陸軍大臣岡市之助殿

騎兵旅團機關銃隊ニ簡便ニ射距離ヲ測定ニ得ル
 測遠機ヲ裝備スルコトニ就テハ大正二年十月三日陸
 機密第九四號ヲ以テ審査下命相成候處差當
 リ携帶測遠器及測索ヲ適當ト認メ之ヲ一隊
 ニ二箇宛トシ乙種器具箱内ニ收納携行スルヲ實
 際ニ適應スルモノト相認メ候間該箱裝填品中
 ニ追加相成度候也

軍事機密

陸軍技術
部在部

機甲第一〇號

器械第二七號

器十月十日

騎兵旅團機関銃隊携行器具制式制定相成度候件

大正三年十月九日 陸軍技術審査部長 高川文

陸軍大臣岡市之助殿



大正二年十月三日陸機密第九四號ヲ以テ審査下
命相成候騎兵旅團機関銃隊携行器具審査ノ
結果別紙附表ノ通制定相成度別冊審査經過
ノ概要及土工器具箱制式圖相添上申候也

追テ同箱内ニ器具ノ收納法、馱載等ニ関スル
取扱ハ便宜上三八式機関銃馱馬具取扱法
中ニ訂正追加相成様致度候

8360



附表第二

騎兵旅團機關銃隊携行器具品目負數裝法(馱馬)

品目負數裝法

土工器具箱 一 三八式機關銃土工具箱鞍片背裝載ス

圓匙 四 圓匙ノ頭部ヲ裝著セル儘十字鉄柄ト共ニ箱内ニ斜ニ併列シ(柄端ヲ馬ノ後方ニ向フ如ク)圓匙纏草ヲ纏繞シテ堅ク縛著ス

器具囊 一 器具囊ニ收納シテ土器具箱中ノ小區畫内ニ收納器具囊ニ纏草ヲ纏繞シテ縛著ス

填入 一 鈍鎌小山鋸柄及青砥(雜巾ヲ包ム)ヲ一纏ト頭部ヲ上方ニ

鈍 一 鈍ノ刃被共

鎌 二 鎌ノ鞆共

青 一 青砥ノ臺及覆

雜巾 二 雜巾

鋸 一 柄ヲ脱シタル小山鋸ノ身(齒被共)ハ鋸袋ニ納メ箱ノ外側ニアル鋸袋纏草ニ縛著ス

小山鋸身齒被共 一

十字鉄頭部 二 箱ノ外側ニアル花筒ニ刀部ヲ箱ニ對向スル如ク拵裝シ十字鉄纏草ヲ纏繞シテ縛著ス

備考 携帶測遠器及測索ハ各鞆共三八式機關銃ニ種器具箱右箱中上部ノ空部ニ收納ス

0940

騎兵旅團機關銃隊携行器具並土工器具箱
審査經過ノ概要

一、明治四十二年十二月機關銃駄馬具改正ニ關スル命令ヲ受ケルヤ將來機關銃隊カ携行スヘキ土工器具及其ノ携行法ヲ共ニ審査研究スルヲ必要ト認メ協議會ヲ開キ次ノ要領ヲ決ス

- (一) 騎兵ノ手馬ニ駄シ騎兵ト共ニ運動ヲ爲スニ適スルコト
- (二) 駄馬具ノ全重量ハ其ノ駄載物ノ重量ヲ合シ概八十五斤以内トスルコト

(三) 土工器具ハ圓匙八、十字鋏四、手斧八、鎌ハ一馬
ニ駄スルコト

二、從來ノ研究竝經驗ニ基キ土工器具箱ヲ以テ器具ヲ運搬
シ器具ノ携行竝所要ニ應シ任意ノ器具ヲ摘出シ或ハ之
ヲ收納スルニ便ニシ且急速ナル步度ニアリテモ器具ノ
爲喧音ヲ發セシムサルノ目的ヲ以テ豫備試験ノ後十字
鋏ノ鐵部鎌等ハ之ヲ布囊ニ收納シテ箱内ニ收ムルコト
トス

各箱試製ノ後重量ノ關係上一箱ニ收納スヘキ品目員數
ヲ次ノ如クセリ

圓匙五、十字鋏二、小斧一、小山鋸一、鎌二、

尺一横鋸一、布囊三

三、此試製箱ヲ以テ明治四十三年五月機關銃馱馬具ト共ニ
十六日ニ互ル行軍試驗ヲ實施セリ

試驗ノ成績ヲ概括スレハ次ノ如シ

試製土工具箱ハ概ホ實用ニ適スルモ箱ノ外側端隅角ヲ
圓削シテ馱者ノ脚ニ接觸シタル際疼痛ヲ感セシメサル
如クスルコト、底鋏ハ圓匙頭部ニテ毀損スルヲ以テ之ヲ
防止スルコト、布囊ノ裂損ヲ防止スルコト

右ノ成績ニヨリ其ノ原因ヲ研究ノ上十字鋏頭部、鋸身ヲ
箱ノ外側ニ縛著シ斧、鉋、鎌、鋸柄ハ箱内ノ一隅ニ收入スル
如クシ底鋏ニ副板ヲ加フ此ノ結果箱ノ重量約三斤ヲ増

加セリ

四、以上ノ修正ヲ行ヒタル上明治四十三年十月特別騎兵演習並第三第十五師團臨時師團對抗演習ノ際騎兵聯隊ニ
 依テ試験セリ

此成績ニ依リ土工器具箱ヲ機關銃器具箱用馱鞍ニ積載
 セシテ改メ馱鞍ノ様式ヲ騎兵通信器材馱馬具ト同一ニ
 シテ馱載ノ際ニ於ケル動揺ヲ減少ス

五、明治四十五年十月特別騎兵演習ニ際シ參加部隊ニ依テ
 シテ試験ス其ノ結果雨水排出孔ヲ闊大セリ

六、大正二年十月陸機密第九四號ヲ以テ騎兵旅團機關銃隊
 携行器具ニ關スル審査命令ヲ受ク

七、以上ノ諸試験ノ結果土工器具箱ノ重量増大セルト工具
 ノ重量ニ於テ改正セラレタル所アルヲ以テ總重量ハ豫
 定ノ八十五斤ヲ超過スルニ至リタルヲ以テ之ヲ輕減ス
 ルノ必要ヲ認め大正三年六月議員ヲ召集シテ審議シ附
 表ノ品目員數ヲ以テ適當トス但シ距離測定器ハ携帶測
 遠器ヲ採用スルヲ適當トスルモ之ヲ土工器具箱ニ收納
 携行スルヨリモ機關銃器員箱ニ收納携行スルヲ實際ニ
 適應スルモト認ムト議決セリ

軍事機密

參謀本部 參機第一八八號第三

步兵機関銃隊携帶器具決定件回答

大正三年三月廿八日參謀總長子爵長谷川好道

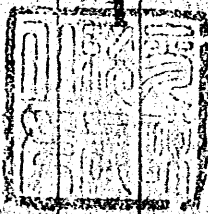
陸軍大臣楠瀬幸彦殿

大正三年三月廿五日陸機客第三三號ヲ以テ步兵機

関銃隊携帶器具決定件契否ノ報 是右

分々之様也

三月二十日



0947

閱

永久

銃砲課聯帶

受領番號 大正三年十一月十三日 軍事機密 受第一八一號 應名 兵器部

件名 兵器細目名稱表(工兵器材部)追加、分印刷件

大臣	次官	參事官	主務局長	主務課長	主務課員	審案筆記者
大正三年十月十五日	大正三年十一月十三日	大正三年十月十五日	大正三年十月十五日	大正三年十一月十三日	大正三年十月十五日	大正三年十月十五日
受領	受領	受領	受領	受領	受領	受領
提出	提出	提出	提出	提出	提出	提出
大臣官房	大臣官房	大臣官房	大臣官房	大臣官房	大臣官房	大臣官房

聯帶第一七號

主務副官 高級副官 主務課員

左 頁

上申

兵器細目名稱表(工兵器材部)追加ノ分別紙ノ通印刷ノ上左案決行相成度候也

追加ノ理由

從來未定ナリシ騎兵機關銃隊土工具決定シタルニ依ル

陸普跡

件名 兵器細目名稱表配賦基準表及同名稱表中

追加ノ分送付ノ件

副官ヨリ別紙配賦表ノ箇所(大正二年五月二十日陸普跡第一六四三號配賦箇所)ノ通牒

兵器細目名稱表(平時用)配賦基準表其四中へ別
 紙ノ通追加相成候條承知相成度又該名稱表
 別紙目錄ノ通及送付(候)付配賦方取計相成度
 候也

陸軍省 陸軍部 第三三五號 十月十九日

注意一、經理局、會計監督部(陸軍省)、侍從武官、東宮武官、技術審

査部及築城部本部行ニハ()内ヲ除ク

二、憲兵隊司令部、朝鮮駐劄憲兵司令部及支那駐屯軍
 行ニハ()内ヲ除ク

三、第九、第十三師團行ハ留守部經由トス

陸軍

0951

騎兵機關銃隊土工具

一三	4	9	衛	近	12	省	軍	陸	
二〇	9	11	一	第	3	部	本	参	
九	5	4	二	第	1	用	管	本	大
九	5	4	三	第	6	用	部	令	司
一二	6	6	四	第	39	廠	本	器	兵
一三	5	8	五	第	12	廠	工	京	東
九	5	4	六	第	8	廠	工	隊	大
七	1	6	七	第	1	部	本	部	城
一四	5	9	八	第	4	部	本	部	輸
六	2	4	九	第	1	部	督	監	計
二	5	6	十	第	1	校	學	理	經
六	2	4	十一	第	1	官	武	從	侍
一三	5	8	十二	第	1	官	武	宮	東
五	7	4	十三	第	10	部	查	審	術
六	2	4	十四	第	6	部	監	總	教
一二	3	9	十五	第	2	校	學	官	士
五	1	4	十六	第	2	校	學	工	砲
六	2	4	十七	第	2	校	學	施	實
一二	4	8	十八	第	105	用	時	平	小
	116		用	時	7	用	時	戰	計
	22		用	時					
	188		計	合	112	計	合		

師團 (要塞及警備隊司令部)

官衙學校

兵器細目名稱表(工兵器材)追加/分配賦表

合計	区分	平時用	戰時用	總計	印刷總數	2	軍司令部	朝鮮駐劄軍
						2	鎮海海軍要塞	臺澎總督府
						2	永興海軍要塞	臺澎總督府
						2	陸軍部	臺澎總督府
						2	基隆要塞	臺澎總督府
						2	澎湖島要塞	臺澎總督府
						1		臺澎總督府
						2	陸軍部	關東都督府
						1	野戰砲兵本廠	關東都督府
						2	野戰工兵本廠	關東都督府
2	旅順要塞	關東都督府						
/						16	平時用	計
/						3	戰時用	計
/						19	合計	計

海外部隊

階
層



目録

名

稱

部數

摘

要

騎兵機關銃隊土工具

内
ハ平時用
ハ戰時用

師團行目録
配職内譯
録ニ左ノ配賦内譯ヲ記ス

師團司令部用

軍兵站監部用

騎兵旅團司令部用

野戰砲兵廠用

騎兵聯隊用

野戰工兵廠用

騎兵機關銃隊用

要塞司令部用

十

(注意) 本表ノ配賦内譯ハ配賦終了後直ニ燒却スルモノナリ

行

9560

陸軍技術
部

甲 第二十九號

十月十五日

陸軍技術部
十月十五日

器械第二十七號

陸軍技術部

兵器細目名稱表案進達ノ件上申

大正三年十月十五日

陸軍技術審査部長 島川

陸軍大臣岡市之助殿

本月十九日附機甲第一〇號ヲ以テ上申

致候騎兵旅團機關銃隊携行器具

ニ對スル兵器細目名稱表案別紙ノ

通及上申候也

陸

軍

2960		直		具	器	工	木	具	器	工	土	區	騎兵機關銃隊土工具
雜	測	携	帶	青	鎌	鉈	小	土	工	十	圓	分	
中	索	器	遠	砥			山	器	具	字		稱	細部ノ名稱數量及摘要
八	二	二		四	八	四	鋸	箱	鍬	匙	一六	數	
	三	三	三	臺及覆ヲ除ク	鞆	刀被	齒被	器具囊	一	鋸袋	一	量	
	八	式	式										
	機	機	機										
	關	關	關										
	銃	銃	銃										
	乙	乙	乙										
	種	種	種										
	器	器	器										
	具	具	具										
	箱	箱	箱										
	右	右	右										
	箱	箱	箱										
	中	中	中										
	ニ	ニ	ニ										
	收	收	收										
	入	入	入										

關
結

8960

騎兵課聯帶

大臣	件名	番受	領	主務局長	主務課長	主務課員	審案筆記者
大臣	騎兵旅團機關銃隊土工器具箱制式制定ノ件	大正三年十月二十二日	大正三年十一月八日	聯帶局長	聯帶課長	聯帶課員	審案筆記者
次官	高級副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官	主務副官
參事官	參事官	參事官	參事官	參事官	參事官	參事官	參事官
裁決	裁決	裁決	裁決	裁決	裁決	裁決	裁決
房官大臣	課局務主	受領	提出	受領	提出	受領	提出
大正三年	大正三年十月二十二日	大正三年十一月八日	大正三年十一月八日	大正三年十月二十二日	大正三年十一月八日	大正三年十一月八日	大正三年十一月八日

陸晉號 通牒

副官ヨリ陸軍技術審査部長へ

騎兵旅團機關銃隊土工器具箱制式制定、
件大正三年十月甲第二八〇號上申、通可被定、
候條該制式圖五十七通調製差出相成度候也

陸軍技術審査部 陸晉號 第三四八九號

十月九日

右圖面差出、上左案決行相成度

同官ヨリ別紙配賦表、箇所へ

騎兵旅團機關銃隊土工器具箱別紙圖面通
被定候條(左記、通及送付)候也

左記

土工器具相制式圖

自其一
至其六

部

陸軍省
陸軍部
陸軍第一三八七號

五月廿一日

注意一技術審査部行三(一)内ラ、承知相成度ニ作り

左記ヲ除ク

ニ左記ノ部数ハ別紙配賦表ニ依ル配賦数トス

収

陸

軍

1960

信房控

外三技術調査部上申圖一制式圖一	器材課	一	
	参謀本部	一	
	築城部本部	一	
	教育總監部	四	
	大阪砲兵工廠	五	
	東京砲兵工廠	一〇	
	兵器本廠	三四	
配賦箇所	配賦數		
工兵器材制式圖配賦表			

陸

軍



陸軍技術
審査部

甲第二八〇號

十月廿二日

器十月廿二日

工兵器材制式制定相成度件上申

大正三年十月廿一日

陸軍技術審査部長 島川 立

陸軍大臣 岡市之助 殿



大正三年十月九日機甲第一〇號ヲ以テ上
申致候 騎兵旅團機関銃隊携行器具
中ノ土工器具箱審査終了ニ付別紙
圖面ノ通制式制定相成度候也



陸軍省 陸軍技術審査部 第一八〇號

大正三年



臺

屏

0962
0962-2



121
11/21/24

陸軍技術
審査部

甲 第二八〇號

十月廿二日

陸軍技術
審査部
第二七號

工兵器材制式制定相成度件上申

大正三年十月廿一日 陸軍技術審査部長 島川文

陸軍大臣岡市之助殿

大正三年十月九日機甲第一〇號ヲ以テ上

申致候騎兵旅團機関銃隊携行器具

中ノ土工器具箱審査終了ニ付別紙

圖面ノ通制式制定相成度候也

陸軍

軍事機密

本部參機第四七七號第二

騎兵旅團機關銃隊推行器材決定件回答

大正三年十一月五日 謀總長子爵長谷川好道

陸軍大臣岡市之助殿

騎兵旅團機關銃隊土工具駄載區分表

制定ノ件ニ関シ去ル三日陸機密第一〇八號

ヲ以テ照會ノ趣 追書共異存無之候也



陸軍